

「岡大教職ナビ」では教職課程を履修しているすべての学生に役立つ情報を随時配信しています。ここでは配信した最新記事の一部を掲載しています。さらに詳しい情報や最新の情報はセンターホームページをごらんください。

教員・講師等募集情報

- 土佐中・高等学校 教員（理科）
- 山梨学院大学附属中学・高等学校 専任教諭・養護教諭
- 神戸山手女子中学校・高等学校 常勤講師（美術）
- 筑波大学附属視覚特別支援学校 教員（幼稚部・養護教諭）
- 金光学園中学・高等学校 教員等（英語・化学）
- 学校法人高羽幼稚園 教員等
- 上尾市（埼玉県） 中学校臨時教員
- 星槎国際高等学校（通信制）教員
- 金光学園幼稚園 幼稚園教諭

スクールボランティア募集情報

- 【H26】 附属小学校健康診断ボランティア（岡山大学教育学部附属小学校）
- 附属小学校身体計測ボランティア（岡山大学教育学部附属小学校）
- 研究発表会ボランティア（岡山大学教育学部附属特別支援学校）
- 保健室ボランティア募集について（岡山市立吉備小学校）
- 総社市学校支援ボランティア（総社市立昭和小学校）
- 倉敷市「居場所」ボランティア（倉敷市教育委員会生涯学習課）
- 学校支援ボランティア（岡山県立岡山支援学校）（岡山市立福浜中学校）
- 総社市学校支援ボランティア（総社市立山手小学校）
- スクール応援団募集（瀬戸内市立牛窓中学校）
- 学習支援ボランティア（瀬戸内市教育委員会）（岡山県教育庁指導課）（和気町立佐伯中学校）
- 保健室ボランティア（岡山市立西小学校）
- 赤磐市教育委員会学習支援ボランティア（赤磐市教育委員会学校教育課）
- 不登校支援ボランティアについて（岡山市教育委員会指導課）

＜教員採用試験受験記＞平成26年度 岡山県 中学校 国語

合格

教育学部学校教育教員養成課程中学校コース 国語専修 小田切 弥栄 さん

私は3年生の3月頃から本格的に対策を始めました。今までの受験勉強とは違うと実感したことは、今していることが先生になってからに直結しているということです。例えば、専門教養は自分が子どもたちに指導していく内容そのものですし、討論や小論文のテーマは今まさに取り組む必要のある教育の課題です。そう思うと、付け焼刃の知識や考えではいけないと気が引き締まり、やる気も高まってきました。絶対に先生になる、という思いを持ち続けてください。その思いが、面接の時に身振りや表情となって面接官にも伝わります。また、くじけそうになった時に自分を支えてくれます。同じ目標に向かっていく仲間や教職相談室の先生方など、たくさんの方が力を貸してくれます。あとは自分が行動できるかどうかです。応援しています。

教員リレーエッセイ「教職を目指す皆さんへ…『人生何が役に立つかわからない。』」

教師教育開発部門 榎田 健志 准教授

岡山大学教師教育開発センターに勤務して3年目を迎えました。私の場合、平成23年4月に岡山県教育委員会と岡山大学による人事交流により、「実務家教員」として赴任したのですが、今の仕事をすると20数年前に本学教育学部を卒業した際には、夢にも思いませんでした。4月1日に辞令をいただき、戸惑いの中、昼休みに桜の咲く岡大キャンパスを散歩したことを思い出します。こんなに時間がゆったり流れていく感覚は久しぶりで、以前の勤務先の同僚達が昼食の時間も陸にとれない状況を思うと、申し訳ない気持ちになりました。同時に、「新しい環境でどれだけ岡山大学やここで教職を学ぶ学生たちに貢献できるのか。」という覚悟に似た気持ちが自然と湧いてきました。あれから、この教師教育開発センターでの業務を通じて、様々な教員養成の場面に携わりました。少しだけ教職を目指す岡大生の皆さんに対し、感じたことをお話しします。



岡大で教職を目指す皆さんと接して感じたことは、しっかりと自己コントロールされた大人の部分と中学生の子どものような純粋な部分の両面をもっていらっしゃると思います。今日の大学生は私が想像した以上に忙しく、人間関係を含めた様々な環境の事象をバランスよくセルフマネジメントしている大人の部分と、授業に対してこちらが本気で臨めば真剣に取り組む純粋に喜怒哀楽を表情に表す、子どものような純粋な部分を持ち合わせており、いい加減で多少世の中を斜に見ている学生像のイメージがあっただけに、いい意味で意外でした。

ただ、日々の生活が忙しいためか自分のテリトリーをやや固定化し、守りに入っているように感じられるところが気になります。「人生何が役に立つかわからない。」この言葉は、教職を目指す皆さんに贈るとともに、今の自分に言い聞かせています。

教職相談室で教採突破を目指せ!

◆教職相談室は、どんなところ？

教育学部講義棟2階の北西端に「教師教育開発センター教職相談室」があります。教職相談室には、教職を経験した2名の専任教員と1名のコーディネーターがいます。教職を目指している学生や教職に興味をもつ学生の相談にのり、教育に関わる様々な情報をお伝えし、応援します。

また、「教師力養成講座」を開催し、学校現場や教育行政の場で活躍されている先輩の熱い思いを伝える活動もしています。

◆教員採用試験突破に向けて、教職相談室では、どんなことができるの？

教員採用試験を受けようとしている人に対しては、小論文、面接、集団討論、模擬授業など受験対策指導も行っています。この中で、まず小論文に取り組ん欲しいと



思っています。小論文指導では、もちろん必要な書き方についての指導もします。でも、それよりも大切にしているのは、テーマについて教員と学生が意見交換をすることです。その中で、テーマがもつ側面や現場での指導の概要を知り、考えを深めていくことができるからです。早い時期から小論文に取り組み、教育についての考えを耕し視野を広げておくことは、面接や集団討論でも大きな力となります。

教職相談室を利用すると、もう一つよいことがあります。それは、共に教職を目指す仲間と協力して準備ができることです。仲間がいることで、助け合ったり、一人で勉強していたのでは気づかない自分の姿や仲間の姿が見えてきたりします。

これまでのデータを見ると、教職相談室を利用した回数が多い人や早い時期から利用した人ほど合格率が高くなっています。

◆「教師力養成講座」では、どんなことがおこなわれているの？

学校現場には、いじめや不登校、学力向上、保護者対応をはじめ様々な課題があります。そうした課題についての情報不足もあって、教職を目指す学生は、学校現場で働くことへの漠然とした不安を感じています。そこで、教育相談室では、現職の先

生方や教育委員会の先生方から学生に直接話を聞かせていただく場として、年6回程度「教師力養成講座」を開催しています。

講座では、教育現場が直面している教育課題とそれに対する取り組みについて、先輩の熱い思いを語っていただきます。その講話をもとに参加した学生間で討論し考えを深め合い、最後に講師の先生から指導や助言をいただきます。こうした過程の中で、教育課題の本質とその対応を理解することができ、教職に向けての意欲や教師としての力量を高めていくことができます。

これまでの5年間の講座は、録画しDVDとして保管しています。教職相談室でこれを視聴しグループで意見交換をするという形での勉強もできます。

◆遠慮しないで、大いに利用してください。

見学も歓迎します。部屋の中で学習が行われているときでも、遠慮なくノックを試してみてください。

開室時間	10:00～11:30 13:30～17:00 (水曜日は、午前のみ)
電話番号	086-251-7660

【文責：武藤幹夫】

TOPICS

- 【特集】 教職相談室で教採突破を目指せ!
- 【報告】 全学教職課程FD研修会の実施
- 【報告】 母校訪問事後指導実施
- 【報告】 平成25年度岡山県・市「合同連携協力会議」開催
- 【報告】 CST学生養成プログラム 第三期生スタート
- 【報告】 現職CST研修講座@蒜山実施
- 【案内】 教職課程履修ハンドブック Second Editionを刊行しました!!
- 【連載】 <<教員リレーエッセイ>> 教師教育開発部門 榎田 健志 准教授
- 【連載】 教員採用試験のツボ その六「教職ガイダンスに参加しよう」
- 【連載】 教員採用試験受験記：小田切 弥栄 さん（教育学部）
- 【掲示板】 「岡大教職ナビ」最新情報
- 【掲示板】 センターからのお知らせ

岡山CST養成プログラム 第四期生募集

応募期間：平成25年11月27日（水）～12月4日（水）

自信をもって理科の指導ができる
 指導に困っている先生を支援できる
 地域の小・中学校の理科教育を推進する力がある
 そんな人材を岡山県教育委員会と共同で養成します。

CSTとは、中核的理数系教員(Core Science Teacher)を意味します。

詳細はCSTホームページをご覧ください。
<https://cted.okayama-u.ac.jp/cst/>

「教職ガイダンス」開催のご案内

《Part I》	12月4日(水) 14:30～16:45 教育学部本館401室 ※対象：1・2年生、3年生も聴講可
《Part II》	12月11日(水) 14:30～16:45 教育学部講義棟5202室 ※対象：3年生と大学院生
《Part III》	1月8日(水) 16:15～17:45 教育学部講義棟5202室 ※対象：3年生と大学院生

原則として対象は決まっていますが、対象外の回へ参加されても結構です。

教職課程履修ハンドブック Second Edition を刊行しました!!

教職課程履修ハンドブック

岡山大学教師教育開発センター

『教職課程履修ハンドブック Second Edition』を10月に刊行しました。First Edition以来、2年ぶりの全面改訂の結果、100頁を超えるボリュームとなりました。ご協力頂いた先生方、事務担当の皆様、厚く御礼申し上げます。

優れた研究的実践力を有する中等教育教員を輩出することが、本学教職課程のミッションです。この使命を果たすべく組み上げた教員養成コアカリキュラムを、ひとつひとつ丁寧に記述しました。学校現場でのボランティアやインターンシップをコーディネートするスクールボランティアビューローや、教員就職に関する相談と「教師力養成講座」を担う教職相談室について詳説しました。さらにセンターHPを中心としたWebコンテンツの活用法を図解、巻末には「教職実践ポートフォリオ」を掲載し、教職への育ちを自己評価するワークブックとしての機能も持たせています。単なる「教職課程履修マニュアル」ではなく、教職をめざす学生に必携の「教材」となっています。本書はセンターHPから閲覧できますので、何卒ご高覧頂き、ご意見頂ければ幸いです。【文責：高旗浩志】

母校訪問事後指導実施



10月23日、30日にそれぞれ文系、理系の学生を対象に母校訪問事後指導が実施され、180名近い学生が参加しました。

母校訪問は単に母校を1日訪問しただけではプログラムを終えたことにはなりません。訪問を終えた後に母校訪問報告書を作成・提出し、それを教材とする事後指導に参加してはじめて母校訪問のプログラムを終えたことになります。そういった意味で、母校訪問をクリアする最後の関門がこの事後指導になります。

事後指導は、大きくはポートフォリオへの自己チェック、グループワーク、諸連絡、アンケート、の構成で実施されました。事後指導の中心であるグループワークでは、自らが作成した報告書を基に相互の経験を共有し、意味づけ、最後に教職を目指す今後の自己課題を設定します。グループワークでは、「授業観察と恩師へのインタビューに加えて放課後の部活動見学もした」、「授業観察で教室に行った時、生徒を前に自己紹介する機会をもらったけど、面白いことを言わないといけない雰囲気になって焦った」「同じ教科でも先生によって教え方が違っていた」などたくさんの声飛び交っていました。このようにして、本年度も無事母校訪問事後指導を終えることができました。当日ご参加下さった先生方や事務の皆様、サポート頂いた全ての方にこの場をお借りしてお礼申し上げます。【文責：三島知剛】

CST学生養成プログラム 第三期生開始



9月のオリエンテーションを経て、10月12日（土）よりCST学生養成プログラムへ第三期生7名が参加し、新たなスタートを切りました。平成25年度後期から養成プログラムに加わる7名の学生は、環境理工学部、理学部、教育学部の学生で、将来CSTとして理科教育を担おうとする意欲の高い学生です。

今日、学校現場では、小学校教員の理科の指導に対する苦手意識、中学校教員の領域による指導力の不足など、多くの課題が指摘されています。CST養成プログラムに参加する学生の皆さんには、こうした状況にある学校現場の先生方の支援が少しでもできるよう、志を高く学んでいってもらいたいと期待しています。

CST学生養成プログラムでは、理科を指導する教員としての背景となる知識や技能を身に付けることを目的とするCST基幹講座、学校現場での学習指導を行うための実践的指導力を身に付けることを目的とするCST課題研究などを実施しています。一律の内容を学生に与えるのではなく、個々の学生の個性を生かしながら学生の持つ力を伸ばししようとするところに岡山CST養成プログラムの特徴があります。

これからの4年半の期間をかけて、それぞれの学生が理科教育を推進する人材として成長することを願っています。

【文責：山崎光洋】

現職CST研修講座@蒜山



通常は、岡山大学で行っている現職CST中学校コースの研修会ですが、受講者の先生方から、ぜひ研修会を企画してほしいという申し出があり、10月19日は蒜山の地域性を生かした内容で研修会を実施することができました。午前、蒜山の山での研修を行い、キノコの観察を中心に「森の分解者」について現地「キノコ」の研究をしている芦立氏に講師をお願いしました。最初は、食べられるかどうかの視点で観察をしていましたが、終わりに近づくと、しっかり理科室に展示する教材を手にして下山していました。おいしい茸ごはんとみそ汁もいただきました。午後は、理科の授業で放射線の学習がどう扱われているかという説明をした後、鳥取大学の中村氏と北氏に講師をお願いして、三朝や東北の温泉水を線源とした桐箱の実験や、ベータ線の量的測定などの実習をしました。また、中学校の理科室でも実験が可能ないように工夫された実験器具の紹介などもあり、皆さん興味を持ってたくさん質問をしていました。内容も濃かったですが、地元の方の温かい心遣いを感じさせられた研修会でした。【文責：荒尾真一】

全学教職課程FD研修会の実施



7月から10月にかけて、文学部、理学部、工学部、農学部の教職員を対象とした「全学教職課程FD研修会」を開催しました。

文学部と理学部はほぼ全ての教職員に、また工学部と農学部では学科代表や教務担当の先生方にお集まり頂きました。貴重なお時間を頂きましたことを、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

約30分の研修で、本学教職課程に関する「基礎知識」と、開放制の教職課程をめぐる現状と課題、具体的には、①教職課程の設置が各学部の総意によるものであることの確認、②教職課程の「質保証」に対するセンターの取り組みの経過、③学部ごとの教員免許取得状況/教員採用状況の経年変化について、また、今後の課題として、①「教職課程委員会」の機能の充実と強化、②事後評価機能や課程認定審査の充実、③大学院段階の教員養成の改革と充実についてお話ししました。多くの建設的なご質問・ご意見を頂き、今後の教職課程の改善に係る貴重な示唆を得ることができました。次年度以降も、必要に応じて開催しますので、引き続きよろしくご依頼申し上げます。【文責：高旗浩志】

平成25年度「合同連携協力会議」開催

岡山県・市教育委員会と岡山大学との合同連携協力会議が、平成25年10月23日に岡山大学で開催され、協議・意見交換・報告等が行われました。本年度の新規事業は、「地（知）の拠点整備事業」として、岡山県・市教育委員会と相談しながら「地域再生・活性化をめざした学生参画システムの構築」に取り組んでいくこと、そして昨年度に引き続き「教師への道」インターンシップ事業を重点事業とすること等が報告・了承されました。また、本年度の「学力・学習状況調査」や「児童生徒の問題行動等に関する調査」の結果を踏まえ、今後ともその課題解決に向け、3者で協議しながら具体的な取組を進めていくことが確認されました。さらに、今後の課題として、学校現場において諸課題の対応に苦慮している初任者等若手教員をポートするための大学教員の関わり方等について、今後検討していくことも確認されました。

また、今後の教員養成改革の方向性や平成26年度概算要求の概要等、国の動向や本年度から実施している「教職実践インターンシップ」等についての報告がありました。【文責：山根文男】



教員採用試験のツボ

「教職ガイダンス」が3回開催されます。日時・場所・対象については4頁をご覧ください。自分の対象の時にできるだけ参加しましょう。都合が悪い場合は対象外の時に参加しても構いません。教員になろうと思っている人はもちろんですが、教員になるかどうか迷っている人や教職についてもっと知りたいという人にとっても大変有意義な会になると思います。

その六「教職ガイダンスに参加しよう」

Part I とPart II では「教職・就職ガイドブック2014」の最新版が配布されます。また、今年教員採用試験を受けて合格した先輩から体験談を聞くことができます。更に、現在学校現場で働いている先輩が、「教師という仕事の現実」「苦労や喜び」「後輩に伝えたいこと」「教採に向けての心構えや準備」などについて熱く話してくれます。現場で活躍している先輩の生

の声を聞くことのできる貴重な機会です。教師になるかどうか迷っている人や教師になることを諦めかけている人も是非参加してください。そして、教職についての正確な情報を知った上で自分の進路を決めましょう。Part III では、来年度の教員採用試験に合格するための具体的な方法や教職相談室の利用の仕方などについてお話をさせていただきます。【文責：小川潔】